

令和8年度 鳥取県図書館協会 定期総会 議事録（概要版）

1 日 時 令和8年6月18日（木）午後1時30分から午後2時50分まで

2 会 場 倉吉交流プラザ 2階 視聴覚ホール

3 出席者 29名

4 議事の概要

【報告事項】

(1) 令和8年度人事異動等に伴う役員の退任・就任について

事務局より資料に基づき説明。質疑無し。

(2) 令和7年度の鳥取県図書館協会の他機関との連携等の状況について

事務局より資料に基づき説明。

(会員からの発言)

会員協会及び関係者による同事業への協力に対して感謝申し上げる。(当協会が共催した「第37回ブックインとっとり表彰式」の関係者)

(3) 令和8年度市町村支出金要請等に係る鳥取県市町村法令外負担金等審議会の結果について。

事務局より資料に基づき説明。質疑無し。

【協議事項】

(1) 議案第1号 令和7年度事業報告及び決算について(監査報告)

事務局より議案書に基づき説明。杉川あゆみ監事より監査報告。全会一致で承認した。

(2) 議案第2号 令和8年度人事異動等に伴う副会長の選任について

事務局より議案書に基づき説明。自薦他薦がなく、事務局より「副会長に鳥取市立中央図書館長 中島泉氏、副会長兼鳥取県社会教育協議会委員に町立みささ図書館長 安田寛氏」と提案。全会一致で事務局案を承認した。新副会長2名が就任挨拶を行った。

(3) 議案第3号 令和8年度事業計画(案)及び予算(案)について

事務局より議案書に基づき説明。全会一致で承認した。

(4) その他 ア 本、書店、図書館にまつわるエピソード大賞の採点基準の見直しについて

事務局より資料に基づき説明。質疑ののち、全会一致で承認した。なお、質疑の内容は以下のとおり。

(質疑等)

会員事業への生成AIの影響を少なくするということが、募集要項等で、生成AIの使用に対する運営側の見解を明記することなどは考えているか。

事務局協会には、生成AIの使用の有無について判断する術がないため、生成AIの使用を認めないということ募集要項等に記載するのは難しい。生成AIへの対応についてのアイデアや実践等があれば皆様からもお聞きしたい。

会員募集要項等に適切な生成AIの使用方法について記述することも一つのアイデアだ。

事務局御意見を参考に検討していきたい。

会長個人的には、生成AIを勧めることも禁止することもないと考える。自分が書いた文章の誤りなどを生成AIに直してもらうことなどはよいのではないか。一方、今回の採点基準の見直しの趣旨を考えれば、応募作品は、自身の体験に基づいたエピソードに限るということを要項等に明記してもよいのではないか。

(5) その他 イ 次年度以降に新たに実施を検討している事業について

事務局より資料に基づき説明。併せて令和8年6月3日に開催した令和8年度鳥取県図書館協会第1回理事会で役員から出された意見を紹介。質疑ののち、取組について前向きに検討することを全会一致で承認した。

(理事会で出された意見)

- ・取組の趣旨や事業内容はよい。
- ・取組を維持するためのランニングコストや人手をどうするのか検討が必要。
- ・マップに掲載された情報を常に最新に保つための工夫が必要。
- ・事業を評価するための指標が必要。
- ・他自治体での先行事例を把握してはどうか。
- ・小さく始めて、徐々に取組を広げていくのがよい。

(質疑等)

会員協会に（公共図書館からの会費として）税金が投入されていることを念頭に、本取組について、行政的な発想で向かうのか、もっとオープンな形で実施するのかを検討する必要がある。こういった対象をマップに掲載するのもしっかりと議論してもらいたい。

会長今回のようなマップを行政で作る場合、掲載対象の選別基準や営業活動を行っている対象をどう取扱うのかという議論が必ず出る。当協会が実施する意義は、その境界を緩やかにできることである。できるだけ対象の範囲を広げたい。また、鳥取県のような小さなコミュニティの利点や、充実した関係者のネットワークを活かし、お互いを応援しあい、本のある空間や本のある環境の充実、それらを残していく取組を考えたい。実施に向けては、更なる検討が必要である。企画委員会などでも検討し、実施可能な事業を目指したい。

会員マップに掲載する項目が重要。掲載内容に濃淡がでやすいため、内容のレベルを揃える工夫があるとよい。そのためには、このマップで何を伝えたいかを明確にすることが大切だ。

6 その他

総会終了後、以下の内容で研修会を開催した。

- (1) 日時 令和8年6月18日（木）午後3時から午後4時まで
- (2) 内容 講演「学校図書館が美しくなければならない理由」
- (3) 講師 中ノ森寿昭氏（学校法人翔英学園理事長）
- (4) 参加者 34名